

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11) 特許番号

第2895435号

(45) 発行日 平成11年(1999) 5月24日

(24) 登録日 平成11年(1999) 3月5日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

G 0 2 B 5/30

G 0 2 B 5/30

請求項の数1 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平8-48143
(62) 分割の表示 特願平1-76295の分割
(22) 出願日 平成1年(1989) 3月27日

(65) 公開番号 特開平8-327823
(43) 公開日 平成8年(1996) 12月13日
審査請求日 平成8年(1996) 2月9日

(73) 特許権者 000004101
日本合成化学工業株式会社
大阪府大阪市北区大淀中一丁目1番88号
梅田スカイビル タワーイースト

(72) 発明者 津村 雄右
大阪府大阪市西区南堀江4-7-1201

(72) 発明者 登森 賢彦
大阪府大阪市城東区放出西3-15-23
カルムイン 城東421号

(72) 発明者 川口 誠也
大阪府枚方市香里ヶ丘8-31-1

審査官 里村 利光

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 耐久性の優れた偏光フィルムの製造法

1

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】 平均重合度2600以上のポリビニルアルコール系樹脂フィルムを製膜した後、一軸延伸して偏光フィルムを製造するに当たり、少なくともホウ素化合物での処理中に一軸延伸し、延伸後のフィルム巾が延伸前のフィルム巾の60%以下になるように、一軸延伸することを特徴とする耐久性の優れた偏光フィルムの製造法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は耐久性に優れ且つ高偏光度を有する偏光フィルムの製造法に関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、卓上電子計算機、電子時計、ワープロ、自動車や機械類の計器類等に液晶表示装置が用い

2

られ、これに伴い偏光板の需要も増大している。特に、計器類や台所まわりの家庭電化製品においては苛酷な条件下で使用される場合が多いので高耐久性及び高偏光度のフィルムが要請されるのである。現在、知られている代表的な偏光フィルムの一つにポリビニルアルコール系フィルムにヨウ素を染色させたものと染料を染色させたものがあり、これはポリビニルアルコールの水溶液を製膜し、これを一軸延伸させて染色するか、染色した後一軸延伸してから、好ましくはホウ素化合物で耐久化処理を行うことによって製造されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、上記のポリビニルアルコール系偏光フィルムの場合、ヨード染色品は偏光性能は良好であるが耐湿性や耐熱性が劣り、高湿度雰囲気下や高熱雰囲気下にさらされると偏光度の低下い